

なぜ？牛久沼がうなぎ発祥の地

～1997年から名乗っているものの、まだ1件も苦情ナシ!!
そのワケを地図から読み解く～



うなぎ誕生秘話

江戸時代後期、江戸・日本橋の芝居小屋の興行主だった大久保今助が水戸街道を通って故郷(現在の常陸太田市)へ帰る途中、牛久沼で疲たし舟を待つ間、うなぎのかば焼きととんぶり飯を注文。ちょうど料理が出てきたタイミングで出舟の上にかば焼きの入った皿をひっくり返してかば焼きの船に飛び乗った。10分ほどで岸に着いて食べてみると、かば焼きがご飯の熱で蒸されて柔らかくなったうえ、甘辛いタレがしみ込んだご飯も格別だった。(※龍ヶ崎市のホームページ参照)



牛久沼の地図

龍ヶ崎市の牛久沼、つくば市、つくばみらい市、取手市に隣接しているが、管轄は龍ヶ崎市



江戸時代の地図からわかること



牛久沼周辺を通る水戸街道を調べてみると、正規のルートより、西に約1km離れた牛久沼を疲たし舟を使った通るルートがあったことが判明。しかも、歩行時間の短縮になることから人気があった。ただ、船着き場の跡は、いまは残されていない。

※龍ヶ崎市のホームページ参照

天然うなぎ漁獲量12トン、全国シェア20%強を占める断トツの茨城県。(2022年農林水産省調べ)。牛久沼では年間200キロ前後獲れる(牛久沼漁業協同組合による)。



龍ヶ崎市歴史民俗資料館で聞いてみた

- 「はっきりしていることは2つ」
1. 大久保今助が、牛久沼で疲たし舟に乗った史実が残っている。
 2. 江戸時代の書物「俗事百工起源」に大久保今助が、うなぎを考案したとする記述がある。

上の2つの俗説が羊は強引に結びつけられて『牛久沼でうなぎが誕生した』とまことげかに語られているのではないかと。

(職員さんの話)

まとめ

家の近くにある旧水戸街道の石碑に興味を持ったこと、地元が「うなぎ発祥の地」とPRしていることワケを知りたくて、調べてみたところ、意外に2つが結びついていることが分かり、驚いた。

牛久沼に疲たし舟があった別ルートを地区で初めて知り、俗説に説得力が増したのではないかと。

200年の時を超えて、語りつがれてきた江戸時代の物語に光が当たったように思う。

1年1組 中島宙流